

## 令和3年度第1回防火訓練を松岡キャンパスで実施

11月19日、松岡キャンパスで令和3年度第1回防火訓練を実施しました。本訓練は、自力で避難が難しい患者さんが多い医学部附属病院において、教職員が日頃から防災に対する意識を高め、防火安全対策の徹底を図ることを目的に、これまでは主に病院エリアで行っていましたが、今回、初めて医学部エリアも含めて行った訓練は、

教職員で構成された「松岡地区自衛消防組織」の隊長・隊員らによる初期消火、教職員の避難誘導などを行い、自衛消防隊の任務と行動について理解を高めることとなりました。

また、医師、看護師、教職員だけでなく医学部学生も参加し、安全管理の知識と技術を高め、非常時の対応が可能となるように各種の訓練を実施しました。



消火器の取扱訓練

午前実施した基礎訓練では、永平寺町消防本部の指導の下、新人看護師、新規採用職員などを対象に、消火器の取扱訓練を実施。消火器を使用し初期消火を迅速に行いました。



模擬出火現場での避難訓練

午後は、医学部臨床研究棟3Fの実験室からの出火を想定した訓練を実施。自衛消防隊を中心に、緊張感を伴った通報と模擬患者の誘導や避難を実施しました。



消火栓の発信機ボタンを押す第一発見者



避難人員、時間、負傷者の有無を  
連絡する避難誘導班



模擬患者の搬送を支援する学生ら



東病棟3階の訓練の様子



訓練中の自衛消防本部隊

訓練終了後、同消防本部予防課の渡辺 信司課長から講評の中で、良かった点として、自衛消防隊の本部が防災センター内に設置されたことで情報共有が図られたこと、改善点として、トランシーバーを使った通信手段が電波状況や雑音などにより情報伝達が上手く出来なかった事を挙げました。

また、避難する際には防火戸を必ず閉めるよう指導がありました。

藤枝重治医学部長は「やはり医学部エリアでの訓練も必要であり、防火訓練を積み重ねて、災害時に行動できるようにしておかなければなりません。設備などのハード面や通信手段など今後の課題が見え、自分達のやるべきことを理解できた訓練になりました」と話しました。

福井大学医学部では、今回の反省点を踏まえてリスク管理・安全対策の面から継続して取り組んでいく予定です。



講評する永平寺町消防本部の渡辺課長